

## 浅川「穴あきダム」への疑問が一層深まった 益田川ダム・大滝ダム視察

日本共産党長野県議団と長野市議団は5月18日・19日、国土問題研究会のご協力を得て、島根県益田市の「益田川ダム」と奈良県川上村の「大滝ダム」現地視察を行いました。

### 国内で唯一稼働の穴あきダム「益田川ダム」 ——浅川の穴あき部は更に「ストロー」状態——

島根県の益田川ダムは、計画高水流量毎秒950m<sup>3</sup>のうち、380m<sup>3</sup>をカットする。河床部に3.4×4.45mの穴が2つ空いており、水はいつも流れている状態で、洪水時のみに水がたまる治水専用ダム。堤高48m、堤頂長169m、総貯水量675万m<sup>3</sup>、基礎地質は安山岩、総事業費294億円である。ダム本体は約52億円で、浅川ダムの半分の額である。長野市の浅川ダムは元々凝灰岩の地滑り地帯にコンクリート量が益田川ダムの2倍を使うことになっており、「穴」が1箇所幅1.1m×高さ1.1m×長さ66mの計画である。まるで、ストローのような穴といえる。専門家の国土研の宇民氏の見解でも「これだと流木・ゴミあるいは土砂がつまりやすく、極めて危険」としている。

### 3,480億円かけても、地滑りで使えない「大滝ダム」 ——試験湛水で「想定外」の地滑り 50戸が移転——

大滝ダムは、国土交通省が多目的ダムとして昭和37年から事業着手し、貯水量8,400万t、計画高水流量5,400t/秒のうち、2,700tを調節する。本体は昭和63年着工、平成14年にはダム本体のコンクリート打設が完了した。15年3月に最高水位の半分ほどの試験湛水をしたところ、ダム上流4kmの川上村白屋地区の地盤にヒビ割れが入り試験湛水を中止し、この対策工事が始まった。現在では約50戸の住民はやむなく移転することになった。ダムの事業予算は当初230億円だったが、5回の計画変更により3,480億円になった。更に地滑り対策費が白屋地区で270億円と、新たに大滝・迫地区で160億円と、際限も無く税金を投入する事態となった。国土交通省の担当者は、この地滑りは「初生地滑り」（想定外）で事前に把握するのは困難だとのことであった。

地滑り地帯の「浅川」に巨大なコンクリートダムを造ることの危険性を一層痛感することになった。

## 6. 2「浅川にダムはいらない県民集会」にお誘い合わせてご参加を

\* 現地見学会 9:00 ダム建設予定地 \* 報告集会 13:30 長野市民会館

当日の現地見学会にはマイクロバス4台を含め、大勢の参加者が予想されます。事務局では案内体制を万全にとり、安全に視察できるよう準備しています。午後からの県民集会は、奥西一夫京都大学名誉教授（国土問題研究会理事長）の特別報告に期待が高まっています。

ご要望をお寄せください

連絡先：日本共産党長野県議団 長野市南長野幅下692-2  
TEL 026-237-6266 FAX 026-237-6322

ホームページ <http://www.avis.ne.jp/~up/> E-mail [jcpngnkd@avis.ne.jp](mailto:jcpngnkd@avis.ne.jp)